

竜王ベストパートナープラン推進事業【滋賀県竜王町】

地域の実情と課題

本町はH27国勢調査によると人口12,000人に対し、昼間人口が17,000人と、働く人の多いまちである。しかし、町内事業所・企業からは、労働力不足の声があがっており、労働力の確保が課題である。労働力不足を解消するためには、潜在労働力としての女性の活躍が期待される。そのためには、働きやすい職場づくりが必要である。

事業の特徴

イクボスの推進を図るためには、具体的な取り組み事例が参考となることから、イクボスアワードでグランプリを受賞した企業、そして町内で先進的に推進している企業による事例発表を取り入れた。また、コロナ禍ではあるものの、多数の事業所・企業に参加いただけるようリモートでの研修参加ができるように対応した。また、イクボス宣言する事業所・企業のPRとして、宣言式を報道機関同席のもと行ったり、町広報誌やHPで随時掲載したりしている。

事業の効果

イクボスにより男性の家事・育児参画の促進や子育て等による制約のある女性社員の離職防止等が進み、町内企業・事業所の労働力人口（特に女性の労働力人口）が増加する効果が期待される。効果検証としては、宣言企業における従業員満足度アンケートでイクボス宣言による働きやすさが人材の定着や確保につながっていることが結果として出ている（女性の就業UP）。

目的・目標

誰もが働きやすい職場づくり、特に育児や介護など時間的な制約のある職員が働き続けるためには、ワーク・ライフ・バランスが保たれることが重要である。働きやすい職場づくりには、まずはトップの行動変革が求められる。こういったことから、竜王ベストパートナープランでは、町内企業・事業所に「イクボス」の普及を進めることを重点目標におき、計画期間内にはイクボス宣言実施事業所が30事業所となることを目指している。令和2年度は、イクボス研修・事例発表会を開催し、その推進を行い、宣言事業所数15社を目指す。

連携団体

多数の事業所・企業が会員として登録されている商工会と連携しながら進めることで、より一層の推進を図る。

今後の課題

多忙な中でもイクボスに取り組もうという意欲のある事業所は少なく、イクボスの重要性をさらにPRする必要がある。そのためには、イクボス宣言で取り組みを見える化することによる効果（事業所内での従業員へのPRによる人材の定着、求人募集でのPRによる人材確保）をさらに周知する必要がある。年間の周知計画を立て、早期から取り組まなければならない。また、宣言後の進捗管理も重要となることから、コンスタントな事業所への働きかけを行う必要がある。

事業の概要

竜王町は働く人の多いまちでも、労働力不足は否めない



誰もが働きやすい職場づくりが必要
子育て中でも！
介護中でも！



重点目標:トップの行動変革
イクボスに
取り組もう！



令和2年度は「イクボス研修会」を実施

事例発表①「一人一人が輝ける職場づくり～リーダーとして学んだこと～」

(株式会社 シンコーメタリコン)

事例発表②「女性活躍の取組み」

(アインズ株式会社)

パネルディスカッション

「イクボスってどうやって進めるの？」

イクボスでどう会社が変わるの？」



「イクボス宣言式」

今年度の宣言は1社のみであったが、報道機関の面前で企業PRIにもつながった。



宣言企業の取組を紹介

イクボスの輪を広げるため、町広報やホームページで紹介しています。

アインズ株式会社 代表取締役 大森七幸さん
令和2年2月25日宣言

私は、全従業員が「コミュニケーション・プラットフォーム・カンパニー」の一員として社会との関係性を大切にすることを目指しています。個人にとって、仕事は、人生を豊かにするためのコンテンツの一つであり、そのプラットフォームが「価値」を生むための土壌です。会社と幸せを分かち合い、大勢の時間を創造こそが価値であると信じています。私が率先して「イクボス」の基盤を築くことで、従業員が社会性に富み、豊かにあふれたプラットフォームづくりに、自ら気づき、自ら考え、自ら行動するよう促しています。全従業員の笑顔の裏に、その裏面の笑顔がふりかかっていること、それが、私にとって最高の喜びです。

例えばこんな取り組み
・妊娠中や子育て中の社員をはじめ子育ての先輩社員や産休・育休中の社員が情報交換をし、悩みを相談できる場として、「マザーズajyou会」を開催、ネーミングの由来



イクボスにより**男性の家事・育児参画の促進**や**子育て等による制約のある女性社員の離職防止**等が進み、町内企業・事業所の**労働力人口(特に女性の労働力人口)**が増加する効果が期待される。